

奈良 勲・内山 靖(編)

「図解 理学療法検査・
測定ガイド 第2版」

櫻井宏明

(藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科)

理学療法では、信頼性・妥当性・確実性のある標準化された評価/検査・測定が要求される。評価/検査・測定とは、患者の現時点での状態を把握し、治療方針を決定し、その実施過程の如何を確認し、さらに、その将来を予測する過程である。「治療即評価」と言われるように、治療と評価は一体であり、「評価できぬ者に治療あらず」と言っても過言ではないほど、理学療法にとって検査・測定は極めて重要な柱である。そして、検査・測定を実施するうえでは、基本的知識だけでなく、基本的臨床技能と実践能力が要求される。

このような中で、本書は、検査・測定に関わる基本的臨床技能と実践能力を高めることに力点が置かれており、理学療法の検査・測定に必要な内容がすべて網羅されている好評書「図解 理学療法検査・測定ガイド」の第2版である。理学療法における検査・測定の目的と相対的位置づけをコンパクトに示し、検査・測定の実際、情報収集の仕方などが丁寧に説明されている。また、初版に加え、「検査・測定項目の選択」、「動作観察の実際」、「動作分析の統合」、「活動量・生活範囲」、「健康関連 QOL」の項目が追加され、検査・測定を実施する際のポイントがより一層、明確に捉えることが可能になった良書である。

本書の最大の魅力は、検査測定手順において情報収集の過程を実践過程に沿って高い臨場感が伝わってくる点である。特に、理学療法士の実際の言動例をセリフ形式で繰り広げ、臨場感にあふれる記述がされており、適切な方法と誤っている方法を図示することで、効率的に学習できるように配慮されている。また、検査・測定の概要とコツを示し、検査の流れやポイント、状況に応じた検査の展開や治療への応用も記述されている。さらに、個々の基本技能の正確な習得と、臨床での思考・実践過程が自然と身につくように構成されており、臨床現場で即実行が可能と言えるほど、実に親切丁寧の説明されている。

本書は、豊富な検査・測定項目を網羅することで、項目によっては、解説文や図・表が少ないように感じる点があるかもしれない。しかし、巻末のクリニカル・ビューでは、臨床の第一線で活躍されている理学療法士が、各検査・測定をどのように工夫して活用しているのかが紹介されており、「治療即評価」が最重要な理学療法においては打って付けの一冊である。また、中には最新の知見を取り入れた内容も掲載されており、evidence-based medicine が、要求される現在の理学療法においては、非常に興味深い。

本書は、理学療法の検査・測定の実践能力を高めるうえで、すでに臨床現場で活躍されている理学療法士はもちろん、理学療法を学ぶ学生諸子および医療、福祉、介護の関連職種の方にも是非ともお薦めしたい。

●A5 判・952 頁・2 色刷

定価 9,975 円(本体 9,500 円+税)

2009 年 文光堂・刊